市民と共に創る！未来型図書館づくり



令和8年11月1日　第1回こまつリビングラボ
小松市未来型図書館づくり推進チーム

はじめに｜小松市の紹介

小松まちづくり5.0

歴史を受け継ぎ 未来をつくる



2040年ビジョン実現へ
好循環をつくり出し「小松を明るく、にぎやかに！」

- 悠久の歴史から受け継がれた小松を次世代へ。
  未来につなぐ **まちづくり5.0** を始動！
- **課題を先送りせず、**いま、真正面から取り組みます
- 様々な方々との**対話とコミュニケーション**で進めます
- **ウラ日本**から、新しいまちづくりに**挑戦し続けます**

重点事業をプロジェクト化

Komatsu ナイン 9プロジェクト

① 小松空港シン都心整備
商業・工業・公共などの多様な機能が融合した新しい集客エリアを創る

② 小松駅周辺の再整備
新幹線効果を追い風に小松らしさと賑わいが共存する駅前に

③ 芦城公園周辺の再整備
未来型図書館を中心に知・文化・歴史・交流・緑が融合する一大ゾーンに

④ 木場潟に子育て拠点の整備
北陸随一の学び・遊びの場をつくり、2030年の育樹祭開催を実現

⑤ 産業ブースト計画
新産業団地の整備や企業誘致の加速、起業や事業継承を促進

⑥ 未来を育む学びのリビルド
全小中学校と市立高校の規模・立地・教育体系の抜本的な再構築

Learn Well, Live Well
いつだって、誰だって、新しい可能性を

⑦ 南加賀の地域医療の強化
高度な新病院建設と地域医療と機能分化・連携強化

⑧ 地域交通の再構築
誰もが気軽兼ねなくスマートな移動手段の設計と実装

⑨ 市税収入の200億突破計画
ふるさと納税10億円達成など戦略的な自主財源の大幅アップ

はじめに｜未来型図書館について



芦城公園

歴史と文化に彩られた市民の憩いの場となるセントラルパーク

○ 旧小松城三の丸跡に開設された都市公園

○ 春の桜や秋の紅葉など四季折々の風情を楽しむことができる



昭和56年開館（45年経過）

蔵書や閲覧席、居場所機能の不足



昭和45年開館（56年経過）

地震により被災（令和7年解体）



昭和34年開館（67年経過）

地震により被災（令和7年解体）

既存3施設を公共施設マネジメントの観点から

既存施設を未来志向で集約・複合化

芦城公園周辺には多くの文教施設　市民の学びと活動の拠点











未来型図書館づくり｜これまでの歩み

令和3年度 調査研究報告書の作成

「定義ない段階」から始まる

「市民と共に進める、次世代都市」づくりを体現するモデルとしてプロジェクトスタート

- ✓ **市民ニーズ等の把握**
  - ▸ 専門家による講演会や各種団体との意見交換
  - ▸ 市民アンケート（回答約1,500人）および市民ワークショップ等の開催
- ✓ **市民参加の体制づくり**
  - ▸ 子どもたちからの絵画募集（約250点応募）

➡ **未来型図書館づくりの機運の醸成**



専門家による講演会



各種団体との意見交換会



子どもたちからの絵画募集（約250点）

令和4年度 基本構想の策定

「市民と共に創る未来型図書館」

市民と共にビジョン・基本方針を具体化

- ✓ **基本構想策定委員会**
  - ▸ 未来型図書館のビジョンや基本方針の具体化
  - ▸ 立地場所を**『芦城公園周辺エリア』に決定**
- ✓ **市民ワークショップ**（5回・延べ250名参加）
  - ▸ まち歩きや対話を通して機能やサービスを検討
  - ▸ **未来型図書館のビジョン・コンセプトとして言語化**
- ✓ **開館を見据えた人材育成を開始**
  - ▸ 「**子ども司書養成講座**」は52名が修了（R7時点）
  - ▸ 「図書館エディター養成講座」は39名が修了（R7時点）

ビジョン：まちや暮らしで実現させたいあり方

こまつを編む。
こまつを巡らす。



ーまちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」ー

● こまつを編む。
まちの中にある多様な資源を結びつけ、価値を生み出しながら、小松の人々が自らの手で、小松というまちを編み上げていく様を意味する。

● こまつを巡らす。
人・文化や歴史・情報・活動・経済等、様々な要素が地域において将来にわたって循環し、連鎖し 続け、生き生きとしたよりよいまちのかたちや暮らしを持続的につくっていく様を意味する。

未来型図書館づくり｜これまでの歩み

令和5年度　官民連携事業方針の作成

官民連携（PFI）手法の導入検討や リビングラボによる施設づくりがスタート

リビング（生活空間）＋ラボ（実験室）

- ○ 市民や事業者、大学、行政等が共に対等な立場で参加
- ○ 未来型図書館に求められる機能・サービス等を、利用者協働の視点で考え、そのアイデアを実践
- ○ 開館後には、様々な地域課題の解決や新たな価値を創出する取り組みの場としての役割を担う



リビングラボを通じた産官学民の枠を超えた取組の実践

集約再編

- 具体の立地場所
- 施設の集約・再編（図書館・博物館・公会堂等）
- ビジョン・コンセプトを実現する機能

官民連携

- 事業者との対話を通じた参入意欲の把握
- 民間収益事業の可能性
- 官民連携の事業手法

令和6年度　基本計画の策定

今後の施設整備・運営の重要な方針を策定

「未来」の定義

小松の「未来」を共に創る（共創）
（常に時代の先端を行く▶未来に触れる）

まちを創る
まちじゅうに、さまざまな架け橋を渡し続ける

こと・ときを創る
施設を通して起こる体験をつくり続ける

ひとを創る
こどもたちの未来を創造するための環境を提供し続けていく

市民の想いを可視化した「未来予想図」



未来型図書館づくり｜市民対話の成果を基本計画へ

第1回　ライブラリーテーマを考えよう！

図書館運営への参画と関心度の向上へ

新しい発見や想像力を沸き立たせる「ライブラリーテーマ」が誕生







- ✓ みんなの想いやアイデアを繋いでテーマの言語化へ
- ✓ 2つの読書「読むことが目的のもの」、「手段としてのもの」

産業や歴史、文化、自然等
地域の特色を考慮

分かりやすく
知的好奇心を強くひきつける

- こまつを知る
- わだちをたどる
- なりたい自分になる
- 豊かな人生を送る
- 創造を楽しむ
- つながりなおす
- めぐるはめぐる
- 知らない世界を開く

本を通じて地域の魅力や資源を再発見・活用し、**創発的な学びの探求を実践**
蔵書と展示品が一体的に配置したスペースを設け、**多角的な学びや発見の環境**

第2回　プロデューサーになってみよう！

融合の象徴となる新たな機能を施設に追加

多面的な機能をもつ未来型図書館の融合・連携を生み出す多様なプロジェクトが誕生

ライブラリーテーマ　×　博物館
×　その他機能



- ✓ 博物館と他の機能が融合・連携する企画を考える
- ✓ 図書館も博物館も、そこにあるものは「情報」

未来型図書館づくり｜市民対話の成果を基本計画へ

第3回　建築家になってみよう！

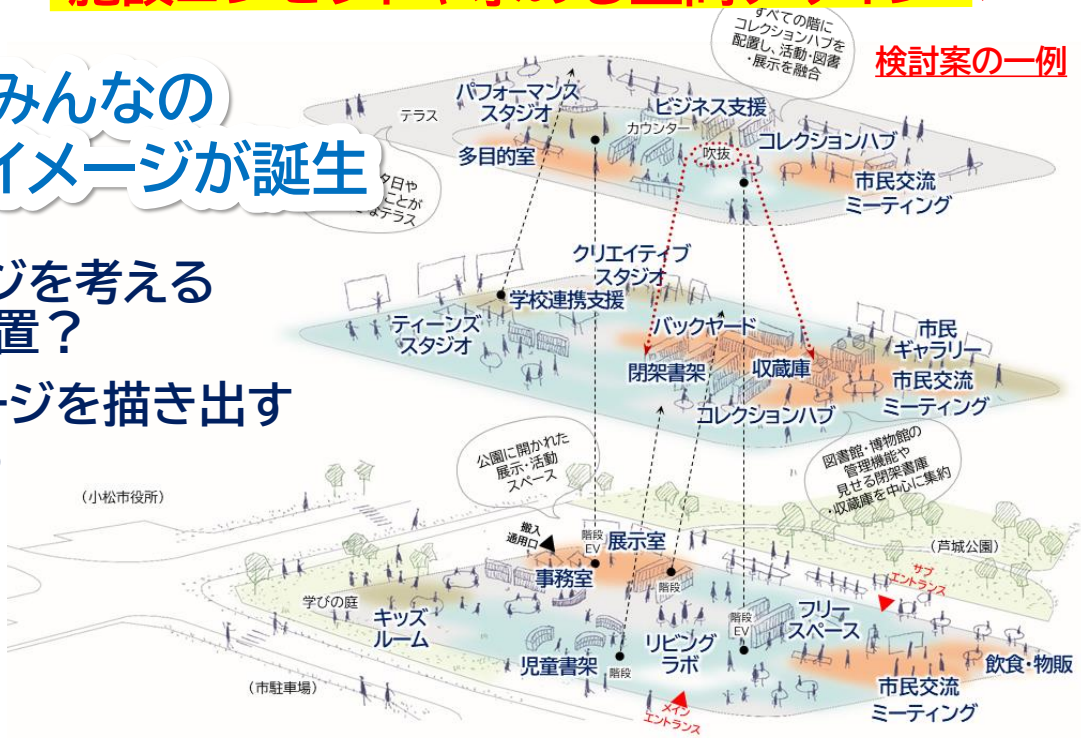
施設コンセプトや求める空間デザインへ

様々な体験や活動が生まれ、みんなのアイデアがつまった建築空間イメージが誕生

- ✓ 思い描く未来型図書館のイメージを考える
  ・・・　書架も集約配置？分散配置？
- ✓ みんなで創造をめぐらせ、イメージを描き出す
  ・・・　コンセプトやネーミングも

まちとのつながり　吹抜け　施設の回遊性　見える施設・活動

検討案の一例



第4回　未来型図書館と公園の関係をデザインしよう！

公園再整備基本計画に反映

未来型図書館と相乗効果を生み出す芦城公園の新たな活用策が誕生

- ✓ 季節ごとの公園での活動イメージを考える
- ✓ 公園と連携することで、どのような体験が生み出されるか





小松市2040年ビジョン「花と緑に囲まれた次世代の文化教養ゾーン」

未来型図書館づくり｜市民対話の成果を基本計画へ

第5回　リビングラボの「小松モデル」を考えよう！

新たな共創のステージへ



みんなで描いたこまつリビングラボのロードマップが完成

✓ こまつリビングラボのこれからを考える

- まちづくりのキーステーションとしての共創
- 利用者協働の視点からの共創
- 共創を通じた小松の「未来」づくり
- 共創を通じたシビックプライドの向上
- プロセスに応じた共創の実践



事業者選定、設計・建設段階における共創の実践

設計・建設の過程においても利用者が期待する空間や活動内容を具体的に現地などで体験する機会を確保

開館準備、開館後における共創の実践

令和12年の開館に向け、子ども司書や図書館エディターなど、市民との共創による実践的な活動を展開

未来型図書館づくり｜目指す方向性・事業者選定（決定）へ

未来型図書館の役割

多面的な機能が融合する **学びの拠点**

- 蔵書の知識と展示物の両面から多角的な学びが深まる

市民が交流を通じて、共に成長し **未来を育む場**

- 多様な人々が対話を通じてアイデアを共有し、価値を創造

ワンランク上の暮らしを目指す **みんなの居場所**

- 市民が集い、開放的で居心地よい、安心できる場所

静けさと賑わいが共存
（読書や会話・活動、カフェ）

サードプレイス
（第3の居場所）

福祉的な役割
（多世代交流拠点）



既存施設の解体が完了した事業予定地

近年の研究やテレビ特集においても
人口あたりの蔵書が1冊増えると、高齢者の要介護リスクが4%減少
という研究成果が発表

市民と共に描いてきたカタチ（施設）



多様な機能を持つ融合型の施設

施設規模 約9,000㎡　　**目標来館者数** 40万人／年

民間の柔軟な発想や技術力
長期的に安定した事業運営

事業手法 PFI手法

図書館

市民の学びを支える知の集積

- 魅力ある蔵書の拡充 **蔵書数35万冊**
- ゆったりとした閲覧席 **360席**
- 新たな本との出会いとなる **テーマ配架**

博物館

小松の歴史・文化を次世代に継承

- 訪れるたびに変化がある **企画展示**
- 市民の発表・表現の場 **市民ギャラリー**
- 図書館と博物館の融合 **コレクションハブ**

交流・活動

市民の交流・活動・共創を支える

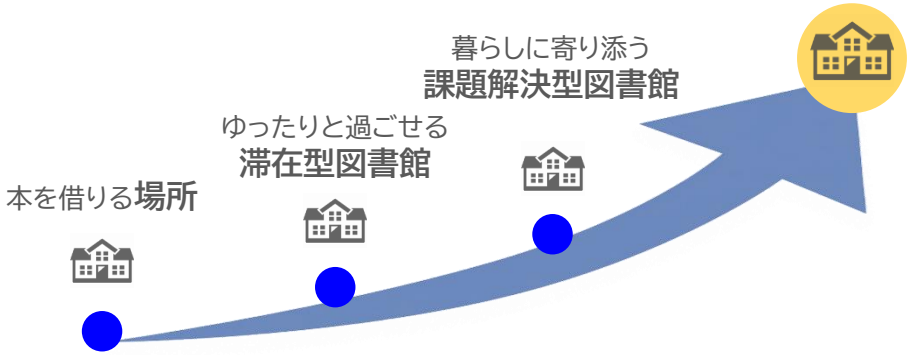
- 市民の活動を支える **様々な交流機能**
- 市民の憩いの場となる **カフェ・飲食機能**
- 10代の居場所や成長を支える **ティーンズスタジオ**
- 市民と未来を創造する **リビングラボ**

教育や福祉などの幅広い分野の機能を合せ持つ
新しい行政サービスの総合施設 を目指します

未来型図書館づくり｜目指す方向性・事業者選定（決定）へ

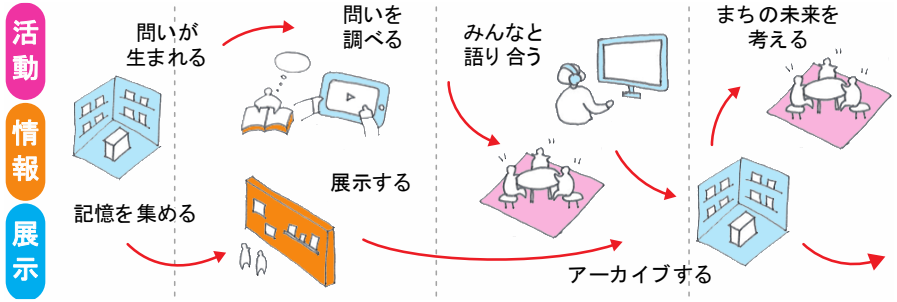
図書館に求められる役割

多様な主体が
共に学び・考え・試みる
「共創型の図書館」



博物館機能との融合

- 図書館と博物館の融合・連携を通じて、本や情報、展示、体験が結びつく知の循環



図書館と博物館の融合の拠点**「コレクションハブ」**

図書館が単なる本の貸出施設ではなく、交流と学び、地域課題の共有と解決、中心市街地等との連携による、賑わい創出を担う、**まちづくりのキーステーション**へ。

市民に開かれた公開プレゼンテーション

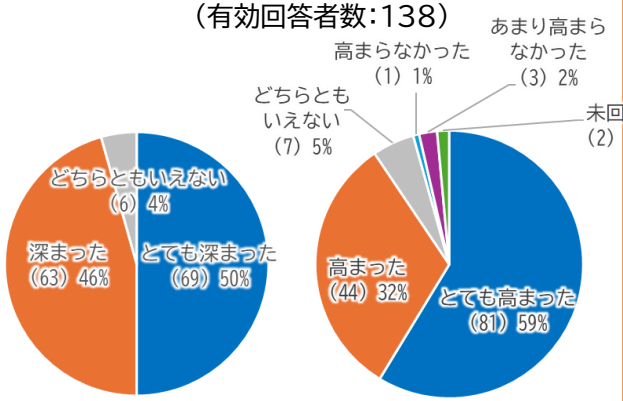
- 3つの事業者グループによる提案の公開プレゼンテーションを開催
- **市民約350人**が傍聴



選定プロセスにおいても共創の理念を徹底

応募者のプレゼンを通じて、完成後の施設や過ごし方を視覚的にイメージ・体感する機会となる

参加（傍聴）者のアンケート結果
（有効回答者数：138）



施設への理解の高まり　　施設への期待の高まり

選定された提案｜コンセプトと方針

※今後、設計等を進める中で変更となる可能性があります。

未来のひらく庭

「庭」を誰にでも開かれ、人々の記憶を映し出す象徴として、市民が関わり、さまざまな活動を積み重ねることで、使うほどに育ち続けていく「庭づくり」を目指す



誰もが過ごせる余白をひらく

世代・目的・障がいの有無を問わず、読書、滞在、交流、学習、参加など、一人ひとりが自分に合った過ごし方を選べる空間と運営を整えます。

記憶に息づく風景をつくる

石、手仕事、劇文化、ものづくり、芦城公園や地域資料を建築・展示・棚・プログラムに重ね、小松の豊かさを発見し、誇りを生む体験をつくります。

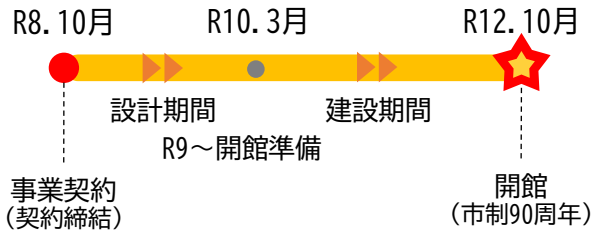
市民の手で育ち、まちへ広げる

市民の問いや活動を、学校、地域活動、商い、文化継承、まちなかの実践へ広げます。その成果や記録を再び施設に還流させ、次の関わりにつなげます。

これから｜共創の継続と今後の展望

市制90周年の節目となる 2030年(令和12年)10月のオープンに向けて

開館までのスケジュール



- ✓ こまつリビングラボ等を通じて、設計・建設・開館準備など、すべてのフェーズで対話を継続

空間デザイン(什器等の設え)　テーマ配架・選書への参加

利用ルール　本の引越　現場見学や体験イベント

利用者協働・機運醸成

- ✓ 市民・行政・専門職・事業者・地域組織が共に運営を育てていく
  - ▸「市民と共に」を基本に、企画運営会議やこまつリビングラボによる共創型マネジメントを構築
- ✓ 市民が主体となって地域の発展に寄与する「共創の場」



仮囲いアートイベントの開催(みんなで彩る未来の樹)

行　政
全体方針・制度・計画との接続。公共性・継続性の担保と制度への橋渡し。

市民・事業者
現場感覚・実践力の提供。利用者としての視点と機動力を持った共創の推進力。

大学・専門家
知見・第三者的視点。対話と検討の質の担保、問いの整理、合意形成の補助。

㈱こまつ賑わいセンター
実務統括・現場運営。都市再生推進法人としての機動力を活かしたプラットフォームの中核。

こまつリビングラボの持続可能な仕組みづくり

「共創」を小松市の新しいアイデンティティへ

未来型図書館等複合施設は、完成して終わる「ゴール」ではなく、まち全体を巻き込みながら共創を育てていく「起点」です。

2030年に向け、市民一人ひとりが主体的に関わる「新しい公共」の姿を、ここ小松から地域の内外に発信していきます。

共創の基盤づくり｜ 開館後を見据えた人材育成

子ども司書養成講座

- 図書館のことや本のことを学び、将来、司書として活躍する子どもたちや、未来型図書館づくりに主体的に参画し、地域で活躍する人材を育成。
- 対象：小学4年生～中学3年生
  内容：司書の仕事体験、POP作り
  読み聞かせ、テーマ配架等




司書のお仕事体験


読み聞かせ


テーマ配架・POP作り

こまつ子ども司書クラブ「BOOKキッズ」

- 「子ども司書養成講座」を修了したメンバーで結成。
- 「本と人を結ぶリーダー」や図書館の魅力アップを目指し、養成講座で学んだこと・体験したことを活かしながら、自分たちで活動内容・計画を考え、楽しく活動している。
  （活動日：毎月第4土曜日の午前）


石川県立図書館見学


閉館BGMづくり


敦賀市ちえなみきでの交流会

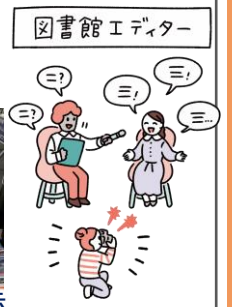
図書館エディター「こまつオルワ’s」

- 「ヒト・モノ・コト」に目を向け、地域コンテンツの編集・発信方法を学ぶエディター養成講座を開催。
- 講座を修了したメンバーで「こまつオルワ‘s」を結成。
- 地域コンテンツの編集・発信者を目指し、講座で学んだ編集スキルを活かして活動を展開中。



▲小冊子「こまつを綴る」発行


現図書館でのテーマ配架展示



子ども学芸員養成講座

- 博物館・美術館や展示を学び、地域の文化芸術の魅力や大切さを伝え、地域で活躍する人材を育成。
- 対象：小学4年生～中学3年生
  内容：学芸員の仕事体験
  バックヤードの見学
  解説パネル作り等




バックヤード見学


展覧会の解説


作品解説パネル作り

おわりに｜未来型図書館づくりを通じたまちづくり

未来型図書館づくりが気になったら
こちらをご覧ください

- ✓ 計画段階から市民と共に創り上げるというプロセスや、老朽施設の再編によるエリア全体のマネジメントなど**従来にないまちづくり手法**にチャレンジ
- ✓ 市民の「知」「文化」「交流」を育み、あらゆる人の居場所となる複合施設は、22世紀に橋を架ける拠点として**新時代の小松のシンボル**を目指す

共創の体制の確立



「未来型図書館づくり」をきっかけにスタートした「リビングラボ」

未来型図書館の中心的機能として位置づけ、
地域課題の解決や新たな価値の創出につなげます。
そして、市民が**「自分ごと」**として活動する
主体的なまちづくりを目指します。



みんなで
小松市を「明るく、にぎやかに！」

エリア価値の向上



未来型図書館を核に新たな人の流れの創出へ

周辺の文化施設と連携し、
芦城公園エリアに新たな活気と交流を創出します。
小松駅や小松運動公園エリアとの回遊性により
まち全体の価値を高めていきます。

住み続けるならやっぱり小松！



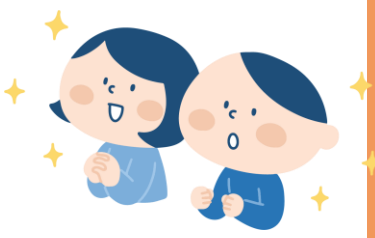
未来型図書館づくりを担う事業者の紹介

代表・マネジメント

大和リース（株）

ののいちカレード（野々市市）などPFI事業の代表35件
実績に基づく確実な業務マネジメントを実施





設計・工事監理

（株）隈研吾建築都市設計事務所
（株）浦建築研究所

角川武蔵野ミュージアム（所沢市）やKomatsu九など
世界から小松市内までを知り尽くした実績豊富な2社





建設

（株）トーケン
（株）丸西組
（株）吉光組

小松市内施設の建築実績を多数有する
オール小松の3社体制







未来型図書館づくりを担う事業者の紹介

運営

丸善雄松堂(株)

ちえなみき(敦賀市)など280施設の運営実績有
豊富な実績で図書館・博物館の運営を担当

(株)編集工学研究所

角川武蔵野ミュージアムやちえなみきでの実績に基づき
図書館での選書や企画を担当

(株)ムラヤマ
(株)フクシ・エンタープライズ

東京国立博物館やアニメ東京ステーションなど
多数の企画展示の実績を有し、展示・博物館運営を担当


ちえなみき

維持管理

太平ビルサービス(株)

石川県立図書館など県内複数の図書館管理実績有


石川県立図書館


ののいち カレード